

＜過去 1 週間の動き＞

(7 月 29 日～8 月 4 日)

USD/ZAR: 14.2300～14.7550

ZAR/JPY: 7.44～7.67 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、予想外の堅調。対ドル、対円共に明確に水準を切り上げた。30 日に発表された南ア経済統計がランド押し上げに足る好要因だったのは間違いない。6 月貿易収支は、歴史的な輸出活況を追い風に予想を上回る大幅黒字を維持したし、予想にこそ届かなかったものの、6 月財政収支の黒字も、歴史的な高歳入を背景としていた。しかし、同日のランドは方向感なく、むしろ軟調気味の推移にとどまり、本格的に水準を切り上げ始めたのは週明け 2 日以降であった。2 日以降、ドル指数も、むしろ堅調気味の推移を続けており、そこにはなんらかのランド固有の買い要因があったはずだが、それとわかる明確な要因は見当たらなかった。逆に、2 日発表された ABSA の 7 月製造業 PMI、Naamsa の 7 月自動車販売台数は、おそらくは同月の暴動の影響を反映して、市場予想を大幅に下振れていた。敢えて挙げるなら、同日、南ア電力公社(Eskom)が、南ア最大の火力発電所がフル稼働を始めたことと発表したのは、長年電力不足と計画停電にさいなまれてきた南ア経済には朗報と言えたかもしれない。ただし、同発電所が安定的にフル稼働を続けるには、更に 24 ヶ月に及ぶ補修が必要と言う。同日、南ア長期国債が一段水準を切り上げていた(利回りは低下)のは、ランド押し上げ要因には違いなかった(非居住者による積極的な購入も考えられた)ものの、国債買いの要因も、「月末の持ち高調整」が言われたぐらいで、しかとしたことはわからなかった。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
7/29	6:00	民間部門信用(前年比)	6 月	-0.54%	+0.40%	-0.42%
7/30	12:00	貿易収支(ZAR)	6 月	+57.7bn	+54.0bn	+54.4bnr
	12:00	財政収支(ZAR)	6 月	+63.1bn	+65.0bn	-5.4bn
8/2	12:44	自動車販売台数(前年比)	7 月	+1.7%	+10.5%	+20.2%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(8 月 5 日～8 月 11 日)

USD/ZAR: 14.250～14.650

ZAR/JPY: 7.50～7.70

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、軟調を予想。昨年初からのランドの値動きを振り返ると、対ドルで 14 近辺の水準で 2020 年を滑り出し、コロナ禍の拡大を受け、一時、19 を割り込む水準まで急落した。コロナ禍が峠を越えるのと前後して反発を始めたランドが、南ア政局の改善(後述)や南ア交易条件の改善(資源価格上昇とランド安)などに引っ張られて 13 台半ばまで反発したのは、相場の習性(注 1)として納得がいく。足元堅調も、些か行き過ぎた反発からの調整安が「ひと息ついた」局面と位置づけられよう。ただし、その落ち着き先が、コロナ禍前(2019 年)との比較で、小幅ではあるがランド高水準である事実は一考に値する。国内政局という目線で、この間、与党アフリカ民族会議(ANC)のマガシューレ幹事長、ズマ前大統領など反ラマポーザ派(反改革派)の排斥に成功したのは、確かに決定的な前進と評価できる。一方で、良好な交易条件を追い風に 2021 年初来顕在化した貿易/経常収支改善(輸出の伸び)、財政収支改善(税収増)が、この先もランド上昇をあと押しするとは考え難い(注 2)。現在の資源価格動向は良くも頭打ちだし、現行ランド水準(注 3)と併せて、今後も、交易条件の優位を保つとは考え難いからだ。過去 10 年余りのランドの値動きを振り返れば、局面的な急落、急反発は観察できるものの、長期的な下落基調をたどってきているのは明らか。これは、物価格差による対外競争力低下を反映した長期トレンドのはずだが、南ア物価が主要国のそれとの比較で、明確に高水準にある構図は現在まで一貫している。行き過ぎたランド安からの反発局面はあって然るべきだろうが、トレンドに鑑みた落ち着きどころは、やはり、もう少しランド安水準になると見るのが妥当ではないか。

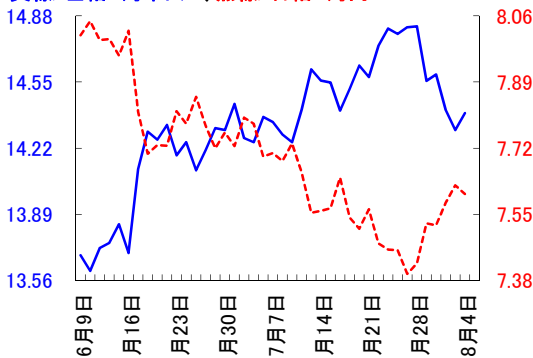
＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/6	6:00	総外貨準備高(USD)	7 月		54.60bn	54.47bn
8/10	11:00	製造業生産(前年比)	6 月			+35.3%
8/11	9:30	企業景況感指数	7 月			97.0

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

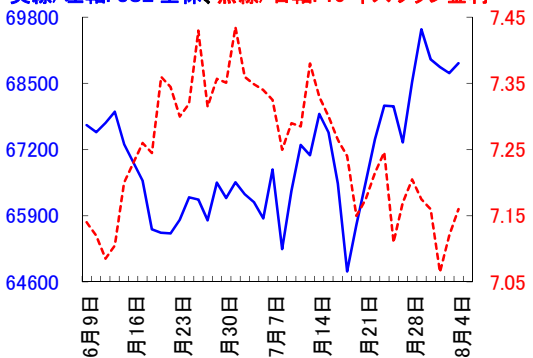
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	8 月 4 日	7.160%
株価指数(JSE 全株)	8 月 4 日	68898.04
成長率(GDP/前年比)	Q1	-3.2%
経常収支(ZAR)	Q1	+267bn
失業率	Q1	32.6%
消費者物価(前年比)	6 月	+4.9%
小売売上高(前年比)	5 月	+15.8%
製造業生産(前年比)	5 月	+35.39%
鉱業生産(前年比)	5 月	+21.9%
貿易収支(ZAR)	5 月	+57.7bn
金価格(ロンドン 17:00)	8 月 4 日	1810.79

(注 1) 谷深ければ山高し

(注 2) 上述の通り、6 月に至ってもまだ衰えを見せてはいないものの

(注 3) 昨年の下落分をほぼ完全に取り戻している

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。